

令和元年度第1回亀岡市総合戦略推進会議 議事要旨録

日 時：令和2年2月17日（月） 14時00分～15時00分

場 所：亀岡市役所 302・303 会議室

出席者：鈴木康久委員長、川勝啓史副委員長、青山公三委員、浦本博臣委員、楠善夫委員、鷹樹浩光委員、多胡麻衣委員、並河景子委員、前川二郎委員、三宅基子委員

議 題：1 開会

2 委員長選出

3 副委員長指名

4 議事

（1）地方創生について

（2）亀岡市人口ビジョン・総合戦略の改訂について

（3）第5次亀岡市総合計画について

（4）今後のスケジュールについて

（5）その他

1 開会、副市長あいさつ

2 委員長選出

事務局

- ・次第に従い、委員長の選出を行う。
- ・要綱では、委員の互選によって定めるとしている。事務局としては、総合計画審議会策定部会の部会長である京都産業大学の鈴木委員にお願いしたいが、いかがか。

～委員一同 異議なし～

事務局

- ・それでは、鈴木委員に委員長をお願いする。

委員長 あいさつ

- ・地方創生が始まった時は京都府の職員として、国からのお金を自主的に取りに行くことになるのだと言われ、計画を作り、美山町にビジターセンターの整備などを行った。地方の個性を発揮するものだと思うので、亀岡市らしい総合戦略になるよう、委員の皆様の協力をお願いします。

3 副委員長指名

委員長

- ・副委員長は、総合計画審議会策定部会副部会長である川勝委員にお願いしたい。

事務局

- ・それでは、川勝委員に副委員長をお願いします。

4 議事

事務局

- (1) 地方創生について
- (2) 亀岡市人口ビジョン・総合戦略の改訂について
- (3) 第5次亀岡市総合計画について
- (4) 今後のスケジュールについて について説明

委員長

- ・説明の概略としては、国の総合戦略に新たな内容が加わったということ。亀岡市の人口ビジョンから、厳しい状況であることが分かるということ。国の新たな内容を、亀岡市の総合戦略に加えた上で、1年間は現在の戦略を継続するということである。
- ・本会議の役割としては、次回以降に総合計画の内容を示していただき、それを受けて総合戦略の内容を検討するということである。
- ・まずは、委員から質問があればお願いします。

A 委員

- ・合計特殊出生率を上げることについては、上がらない原因の調査などもあるので、具体的に考える方法がある。
- ・少子高齢化という言葉を使うことはやめるべき。少子化と高齢化は全く別の問題であり、高齢化は確実に訪れるが、少子化は施策の努力により克服することができる。総合計画でも総合戦略でも、言葉を分けて考えるようにしたい。

委員長

- ・続いて、総合計画審議会策定部会に入っていない委員から、意見を頂戴したい。

B 委員

- ・少年サッカーチームの指導員をやっているが、総合戦略の中の「スポーツを活かしたまちづくりを推進する」という部分に関心を持った。
- ・亀岡市には合宿をすることがなく、るり溪少年自然の家や丹波自然公園を利用している。茨城県の神栖市というところでは、民宿が芝生のグラウンドを持っており、スポーツを活かしたまちづくりに取り組まれている。そういったところも参考にしてみたい。

委員長

- ・民宿がグラウンドを持っているということで、ハード整備ではない形での施策があるというこ

とかと思う。

C 委員

- ・これまで金融機関としてこういった会議に参加して、根本的な問題を考える機会がなかった。これから金融面としてできることを考えていきたい。

委員長

- ・地域経済の面では金融機関の役割は重要なものである。色々と教えていただきたい。

D 委員

- ・不動産に関して、空き家対策や高齢者のサポートなどが問題となっている。亀岡市は京都市も近く古民家もあるが、中途半端な土地であり、求められている田舎の小さな物件があまりない。高齢者については家主の理解がなかなか得られず住むところがない場合や、女性の方で、保育園がないので働くことができない場合がある。

委員長

- ・転入より転出が多い状況であり、どうしたら差を埋められるかという点について、今後意見をいただきたい。

E 委員

- ・京都府でも昨年に、総合計画を策定し、それに合わせて総合戦略を作っている。総合戦略は地方創生に関する交付金を獲得するために、知恵を絞って作っていくものという観点があるので、交付金を意識した戦略とする必要がある。
- ・京都府の総合戦略と整合することでストーリーを作ることできるので、京都府との橋渡しをお手伝いしたい。南丹地域の地域振興計画を作るときに、関係人口という言葉が出てきた。定住人口だけでなく、交流人口や関係人口まで広げて賑わいを作っていくという視点を入れていただきたい。

委員長

- ・地方創生の交付金については、亀岡市も大変多い金額を毎年交付されている。計画の中で、どこにお金を入れていくか、実行することをまとめる計画だと認識している。京都府の計画とも整合がとれるよう、指導いただきたい。

5 閉会

事務局

- ・次回は7月に予定しているので、よろしくお願いします。

以上